

## 令和2年度能代市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和3年1月15日（金）午後1時28分～2時27分
- 2 場 所 能代市立淳城西小学校 2階 コンピュータルーム
- 3 出席者 能代市長 齊藤 滋 宣  
能代市教育委員会  
教育長 高橋 誠 也  
委員 木村 高 寛  
委員 西村 省 一  
委員 中嶋 佐千子  
委員 寺田 恵美子
- 4 案 件 授業におけるICT活用のメリット（説明と操作体験）

### 【市長あいさつ】（市長）

今日は、「授業におけるICT活用のメリット」について、タブレット導入により、学校教育は新たな段階を迎えることとなることから、実際に操作体験もしてもらい、皆様から忌憚のないご意見をお願いしたい。

### 【教育長あいさつ】（教育長）

これまで積み重ねてきた能代市の教育、授業スタイルの上にさらに情報活用能力の育成を掲げ、もう一段上の授業改善を図っていきたい。長年使われてきた教科書やノート、黒板などの長所と、電子黒板やタブレットの良さが共存し、さらに子どもたちの意欲や理解の向上につながるものにしていきたい。

### 【案 件】（学校教育課長）

#### 授業におけるICT活用のメリット（説明と操作体験）

##### 1 はじめに

GIGAスクール事業により、1人1台のタブレット端末、児童生徒及び教師用として合わせて約3,300台導入された。今日は、活用の核となる授業について説明する。実際にタブレット操作の体験をしてもらい活用のイメージをもってもらいたい。

##### 2 ICT活用のメリットについて

秋田県では全国トップレベルの学力につながる「秋田の探究型授業」が全県的に展開されている。タブレットの活用は、このトップレベルの授業を機能させるツールとして位置付けしていきたい。

##### 3 本日のタブレット操作場面について

「秋田の探究型授業」は、学習の見通しをもつ、自分の考えを持つ、集団で話し合う、学習

内容や方法を振り返る、の4つのプロセスに関連付けて行われる。

はじめの例は、自分の考えをもつ場面において、調べる学習で教科書に載っているQRコードを各自がタブレットで読み取り、様々なコンテンツ等を活用しながら情報を収集する活動である。

2つ目の例は、集団、とりわけペアやグループで話し合う場面において、お互いの考えを出し合いながらより良い解決方法や最適解を導いていく活動である。他の人のタブレット情報をもったり、グループで考えたことを自分のタブレットにフィードバックすることができる。

3つ目の例は、授業のまとめの段階などで、学級全体で話し合う場面において、電子黒板によって全体の情報を集約し、考えを共有する活動である。

#### 4 今後について

授業におけるICT機器の活用については、児童生徒の理解を深めるために教師が使う場面が多い傾向にあった。今後は、活用の主体が児童生徒へと移行していき、主体的な学習が一層推進されることになる。

#### 【操作体験】

#### 5 終わりに

タブレットの導入は、学校教育における大きな転換期とも言える。教育委員会では、独自に活用の方針を示し、すでに研修等を進めている。今後は、先生や児童生徒が安心して活用できるよう支援員を配置するなど、操作のサポートだけではなく、授業における活用方法の助言ができる支援体制の整備をお願いしたい。

(市長)

ご意見・ご質問等について、委員の皆様は順番にお願いします。

(木村委員)

先生方の研修がしっかりされていて、楽しい操作方法を体験できた。長所は、自分のペースで理解し、学習を進めていくことができること。臨時休校となったとき、オンライン授業で活用することができること。短所は、人との交わりが少なくなり、例えば順番を待つ、人の声を受け取る等の教育が薄れていき、情緒性が育つのか。また、高速で大容量のいろんな情報が入ってくる中、使用するためのガイドラインは作らなくてもいいのかと感じた。教科書採択の際、たくさんの教科書にQRコードがあった。これからはQRコード等の活用が大きなウエイトを占めると感じた。また、機材的なトラブルにどう対処していくのか、サポートの人材数は十分なのだろうか。家庭でのオンライン授業が進められるとき、家庭の通信環境は整っているのだろうか。このコロナ禍で、いろいろ苦勞されている人たちに感謝のできる子ども、そして周りの人々の辛さや切なさを心に感じ、支え合っていく子どもを、わたしたちはしっかりと育てていくことも忘れてはいけない。

(西村委員)

初めて体験させてもらい勉強になった。今はパソコンやスマホが必要な時代であり、授業でのタブレット使用は必要なものであると感じた。長所、短所は木村委員が述べたので特にないが、これからの教育がどういうふうになっていくのかなと感じた。自分自身、便利さに慣れてしまい、

漢字が書けなくなっている。英語では、今は翻訳や通訳ができるものがある。漢字は書けなくても、話しかけると出てくるという時代になるのかなと心配している。タブレットの使用は、手段や道具として使いこなせるというのは非常に大切なことであり、そうしなければ時代についていけなくなってしまうと思う。まずは使い方を学び、それからどうするのかという子どもたちの創造性が大事なのでないかと思う。トラブルがあったときのサポート体制がどのようになるかが心配である。

(中嶋委員)

先生がリアルタイムで生徒全員の意見やアイデアを一瞬で把握できる、それを全員でシェアすることができるという実体験をしてとてもよかったと感じた。学ぶ意欲の向上につながるのではないかということと、タブレットに触れることによって、今のIT社会で生きるための知識を学ぶことができるのではないか。文科省のHPでは、2019年12月19日、羽生田文部科学大臣のメッセージのはじめに、「1人1台端末環境は令和時代における学校のスタンダードである」と述べられ、「その実現には各自治体が一丸となって取り組み、ICT環境の実現に取り組んでいただきますよう心よりお願い申し上げます」と結ばれている。こうしたICT環境を整えていただいたことに感謝している。今後も子どもたちがICTを適切、安心して使いこなすことができる正しい情報の選択、情報リテラシーの能力を育成していくために、ICTの活用指導力の向上に力添えいただきたい。

(寺田委員)

未来を生きていく子どもたちのためにICTを活用していくということが必要だということ は理解できるが、自分自身がそういう教育を受けてきていないこと、苦手意識があることから納得できないところがあった。ICTというのはツール教材のひとつだという考えはこれからもしっかり持ち続けていただき、使いこなせる子どもたちに育てていきたい。全国トップレベルの能代市の教育になぜ必要なのかということ深く考えさせられた。知恵や知識、体験を学んでいくのは五感をフルに使ってというところは大事にしていきたいと思っている。そういったところはしっかりと踏まえて、これからの研修にあたってほしい。実際に使用する子どもたち、保護者は理解できているか、間違っただけで誤解が生じないかという不安がある。タブレットを幼少期から与えれば家庭教育が成り立っていると捉えられてしまっただけでは、健全な精神の発達が促されないのではないか。学校の教育現場にとどまらず、保護者へも理解してもらえるような啓発活動は必要になってくるのではないか。

(教育長)

能代市では、ICT関係の最新知識と技能を備えた教員が各校に1名以上いる状況を作るため、11月から始まった国の学校教育の情報化指導者養成研修をすべての学校から1名以上と教育委員会指導主事3名が受講した。1月8日、市教育委員会主催で、その受講した先生方を対象に指導主事やハード、ソフトのメーカーサイドの方を講師にタブレットの使い方、活かし方について研修を行った。授業で使えるいろんな機能の説明があり、参加者全員から大変有効な研修であったとの感想があり、4月からの授業が楽しみだという意見があった。不安や疑問も多く出されたので、今後に生かしていきたい。このあと、モデル授業と研修会を行い、それを各校に持ち帰り、さらに学校ごとに、授業への活用について、市内全部の先生方が研修できるようにし、4月からのタブレットの本格活用に向けた準備を進めることができると考えている。

外部人材による支援については、5名のICT支援員の配置を予定し、この支援員が各校を回り、2日に1回は必ず行ける体制とする。また、浅内小学校をモデル推進校としてさらに先進的な取り組みに挑戦して他校へその良さを広げていきたい。

家庭での環境は、児童生徒約3,000名、2,000世帯のうち約1割200世帯でインターネット環境が家がない状況にある。家での繋がり方についても検討していく必要がある。

委員の皆様からのご意見を参考にし、さらなるICT教育の充実を図っていきたい。

(市長)

非常におもしろい授業ができるということが分かり、とても利便性の高いものだと感心した。知識を吸収するツールとしては非常に素晴らしいが、子どもたちの心の部分、知恵という部分で、どう先生方が補助するのか、その先生方の存在感が大きく、今まで以上に大変なのではないかと感じた。人間は、感情の動物で、感情があることによってそれぞれの特性を認め合い、認め合う中に痛みや苦しみや喜びがあると思う。教育の中からそういう部分がなくなってしまうということは、もはや教育ではないと思う。機械を使いながら授業をするなかで、本来、人間が持っているやさしさ、人間関係、感情等をどう子どもたちに育成し、向き合っていくか非常に難しい。先生方がかなり苦勞するのではないかと感じた。子どもたちは簡単に使いこなして楽しんでいるが個性がなくなる。その部分でのフォローが非常に大事ではないかと、実際に体験し感じた。

(木村委員)

「SDGs (エスディージーズ) 持続可能な開発目標」の、誰一人取り残さない世界というような、人間の協調性を育てる教材を使ってほしい。

(中嶋委員)

コロナ禍で、大変な時代だが、子どもたちのあいさつが大人の気持ちを朗らかに、穏やかにしてくれ、とてもいい町、いい市だなと思いながら過ごすことができている。

(市長)

あいさつや返事、笑顔、人にやさしくできるという基本的な部分で子どもたちがよく育っていて、能代市の教育の自慢できるところだと思う。教育委員会だけではなく、先生方の努力の賜物だと思う。感謝申し上げたい。

**【閉 会】**